

バージョン 6 リリース 2



インストール・ガイド

ご利用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典: WebSphere® Business Monitor development toolkit
Installation Guide
Version 6 Release 2

発行: 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当: トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2009.4

© Copyright International Business Machines Corporation 2008.

第 1 章 ツールキットのインストールおよび除去

IBM® WebSphere® Business Monitor Development Toolkit には、モニター・モデルの作成とテストに役立つウィザード、ライブラリー、およびテスト環境が用意されています。WebSphere Business Monitor Development Toolkit は既存の Rational® Application Developer 環境または WebSphere Integration Developer 環境にインストールできます。

WebSphere Business Monitor Development Toolkit を構成する主なコンポーネントは、次の 2 つです。

- Monitor 開発環境
- Monitor テスト環境

Monitor 開発環境には、モニター・モデル・エディターとデバッガーが用意されています。モニター・モデル・エディターを使用すると、新規にモニター・モデルを作成したり、WebSphere Business Modeler から予備モニター・モデルをインポートしたりできます。WebSphere Integration Developer で開発ツールキットを使用している場合は、WebSphere Process Server または WebSphere Enterprise Service Bus アプリケーションからモニター・モデルを生成できます。モニター・モデル・エディターを使用すると、生成またはインポートしたモニター・モデルを拡張および詳細化することができます。デバッガーを使用して、モニター・モデルのテスト中に発生する問題のトラブルシューティングを行ったり、モニター・モデルが情報を収集する方法を把握したりすることができます。

Monitor テスト環境には、Business Space などの完全な WebSphere Business Monitor サーバーが含まれています。

Monitor テスト環境を使用して、モニター・モデルの Business Monitor サーバーへのデプロイ、Monitor アクション・サービスの構成、Business Space のデータの表示ができます。Monitor テスト環境は、以下の作業もサポートします。

- 迅速な繰り返し型開発を促進する (リバプリッシュ・サポートを使用)。
- テスト・イベントを作成して発行できるようにする

Monitor テスト環境をインストールするには、次のいずれかのオプションがインストールされている必要があります。

- WebSphere Integration Developer の WebSphere Process Server または WebSphere Enterprise Service Bus テスト環境
- Rational Application Developer の WebSphere Application Server テスト環境

重要:

- モニター・モデルのデプロイに使用する予定のサーバーと同じバージョンの開発ツールキットを使用する必要があります。例えば、モニター・モデルの作成に WebSphere Business Monitor Development Toolkit 6.2 を使用している場合は、WebSphere Business Monitor サーバー 6.2 を使用してモデルを実稼働環境にデプロイする必要があります。

- WebSphere Business Monitor Development Toolkit は、管理権限を持つユーザーのみがインストールできます。

続行する前に、WebSphere Business Monitor Development Toolkit DVD またはダウンロード可能イメージを使用可能にしておく必要があります。ダウンロード可能イメージを使用する場合は、ファイルを一時ディレクトリーに抽出する必要があります。

前提条件ソフトウェア

WebSphere Business Monitor Development Toolkit をインストールするには、適切な前提ソフトウェアが必要です。インストールを開始するには、使用するコンピューターにサポートされるオペレーティング・システムと開発プラットフォームがあることを確認しておく必要があります。

最新のソフトウェアおよびハードウェア要件については、次のシステム要件 Web サイトを参照してください。

<http://www.ibm.com/support/docview.wss?rs=802&uid=swg27013694>

サポートされるオペレーティング・システム

使用するコンピューターに、次のいずれかのサポートされるオペレーティング・システムが存在することを確認してください。

- Windows® XP Professional SP2
- Windows Vista Business Edition
- Windows Vista Enterprise Edition
- Windows Server 2003 Enterprise Edition SP1
- Windows Server 2003 Standard Edition SP1
- Windows Server 2008

WebSphere Business Monitor Development Toolkit では、32 ビット・オペレーティング・システムのみがサポートされます。

必須のハードウェア仕様

使用するコンピューターが次のハードウェア仕様に適合することを確認してください。

Intel® Pentium® III プロセッサー (1GHz 以上)
Intel EM64T または AMD Opteron
最小 2 GB の物理メモリー
DVD-ROM ドライブ

Passport Advantage®からのダウンロード可能ソフトウェア・イメージを使用する場合は、DVD-ROM ドライブは不要です。

サポートされる開発プラットフォーム

WebSphere Business Monitor Development Toolkit をインストールするには、事前に次のいずれかの開発プラットフォームがコンピューターにインストールされている必要があります。

- IBM WebSphere Integration Developer 6.2
- IBM Rational Application Developer 7.5.1

テスト環境に必要な追加ソフトウェア

Monitor テスト環境をインストールするには、開発プラットフォーム用のテスト環境がインストールされている必要があります。テスト環境が、開発プラットフォームに適切なレベルであることを確認します。

- WebSphere Integration Developer:
 - WebSphere Process Server 6.2
 - WebSphere Enterprise Service Bus 6.2
- Rational Application Developer:
 - WebSphere Application Server 6.1.0.21

Monitor テスト環境をインストールする場合、WebSphere Business Monitor Development Toolkit のインストールで、次のソフトウェアおよび共通コンポーネントもインストールされます。

- AlphaBlox 9.5.2
- Business Space (WebSphere 採用)

Derby Embedded は、開発プラットフォーム用のテスト環境に付属しています。

Business Space 内のモニター対象データを表示するには、次のいずれかのサポートされる Web ブラウザーがインストールされている必要があります。

- Mozilla Firefox 2.0.x (このバージョンのみをサポート)
- Internet Explorer 6.0 SP2
- Internet Explorer 7.0

WebSphere Integration Developer への開発ツールキットのインストール

IBM WebSphere Business Monitor Development Toolkit を既存の WebSphere Integration Developer 環境にインストールできます。WebSphere Business Monitor Development Toolkit は、Windows の場合にのみ使用できます。

インストールを実行する前に、以下の作業を完了している必要があります。

- WebSphere Integration Developer 6.2をインストールした。

Monitor テスト環境のインストールを予定している場合は、以下のタスクを完了させておく必要があります。

- WebSphere Integration Developer 6.2 用の WebSphere Process Server または WebSphere Enterprise Service Bus テスト環境のインストール

次のいずれかの方法で、開発ツールキットを WebSphere Integration Developer にインストールできます。

- WebSphere Business Monitor Development Toolkit 製品ランチパッド・プログラムの使用
- 既存の IBM Installation Manager の使用
- サイレント・インストール方式の使用

製品ランチパッド・プログラムを使用してツールキットを WebSphere Integration Developer にインストールする

インストール・イメージのルート・ディレクトリーから使用できる製品ランチパッド・プログラムを使用して、WebSphere Business Monitor Development Toolkit を既存の WebSphere Integration Developer 環境にインストールすることができます。ランチパッド・プログラムには、ご使用の環境に適切なオプションを選択する、対話式インストールが用意されています。

- ツールキットをインストールするためには、WebSphere Integration Developer 6.2 をインストールしておく必要があります。
- ツールキットのオプション・コンポーネントである Monitor テスト環境をインストールするには、WebSphere Integration Developer 6.2 用の WebSphere Process Server テスト環境がインストールされている必要があります。

製品ランチパッド・プログラムを使用して WebSphere Business Monitor Development Toolkit をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 製品 DVD を挿入すると、インストール・プログラムが自動的に開始されます。手動でインストール・プログラムを開始するには、DVD またはローカル・ファイル・システム上のツールキット・インストール・イメージのロケーションのルートにナビゲートして、launchpad.exe を実行します。IBM WebSphere Business Monitor Development Toolkit 6.2 ランチパッド・プログラムが開きます。
2. 「**IBM WebSphere Business Monitor Development Toolkit V6.2 のインストール**」リンクをクリックしてインストールを開始します。IBM Installation Manager の「パッケージのインストール」パネルが開きます。
3. 「パッケージのインストール」パネルで、「**IBM WebSphere Business Monitor Development Toolkit**」と「**バージョン 6.2**」のチェック・ボックスを選択し、「次へ」をクリックします。これらのチェック・ボックスはいずれもデフォルトでオンになっています。正しいパッケージがローカル・システムにインストールされていない場合は、エラーが表示され、インストールを続行できません。
4. 「ライセンス」パネルで、使用許諾契約書の条項を確認し、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 使用条件の条項に同意します
 - 使用条件の条項に同意しません
5. 「次へ」をクリックします。現在システムにインストールされているパッケージ・グループを特定するために、短時間のチェック処理がインストール・プログラムにより実行されます。

6. 「ロケーション」パネルで WebSphere Integration Developer パッケージ・グループを含んでいる *package_group* をクリックし、「次へ」をクリックして続行します。選択したパッケージ・グループが、ツールキットの必須の前提条件を満たさない場合は、エラーが表示されます。
7. 「フィーチャー」パネルで、インストールするフィーチャーを次から選択して、「次へ」をクリックします。
 - 「**Monitor 開発環境**」: Monitor 開発環境をインストールします。このオプションは、デフォルトで選択されており、編集できません。
 - 「**WebSphere Integration Developer でのモニター・モデル生成のサポート**」: WebSphere Process Server アプリケーションおよび WebSphere Enterprise Service Bus アプリケーションからモニター・モデルを生成できるようにします。
 - 「**アセット・リポジトリ・クライアント**」: WebSphere Business Modeler、WebSphere Integration Developer、および WebSphere Business Monitor からのビジネス・プロセス・マネージメント成果物を保管するアセット・リポジトリを提供します。このフィーチャーには、IBM Rational Asset Manager のインストールが必要です。サポートされる IBM Rational Asset Manager のバージョンは、7.1、7.1.0.1、7.1.1、および 7.1.1.1 です。
 - 「**Monitor テスト環境**」: 既存のテスト環境に Monitor テスト環境をインストールします。
 - 「**WebSphere Process Server での WebSphere Business Monitor プロファイル**」: 既存の WebSphere Process Server テスト・サーバーで稼働する WebSphere Business Monitor テスト・サーバーを作成します。
 - 「**WebSphere ESB での WebSphere Business Monitor プロファイル**」: 既存の WebSphere Enterprise Service Bus テスト・サーバーで稼働する WebSphere Business Monitor テスト・サーバーを作成します。
8. 「要約」パネルで、インストールされる機能、必要なディスク・スペース、およびインストール・ロケーションの情報を確認します。変更が必要な場合は、「戻る」をクリックして前の各パネルに戻り、値を変更します。
9. 「インストール」をクリックして、インストールを開始します。インストールが完了したら、最後のパネルにある「**ログ・ファイルの表示**」リンクをクリックして、エラーが存在するかどうかを確認します。
10. 「完了」をクリックしてインストールを終了します。

インストール後に次のメッセージのようなエラー・メッセージがログ・ファイルに出された場合は、このメッセージを無視してかまいません。

Rational Application Developer からの WebSphere Application Server バージョン 6.1.0.21 テスト環境がインストールされていません。WebSphere Application Server バージョン 6.1 テスト環境を Rational Application Developer バージョン 7 からインストールし、バージョン 6.1.0.21 にアップグレードする必要があります。

IBM Installation Manager を使用してツールキットを WebSphere Integration Developer にインストールする

IBM Installation Manager を使用して、WebSphere Business Monitor Development Toolkit を既存の WebSphere Integration Developer 環境にインストールすることができます。IBM Installation Manager では、既存の Eclipse 開発環境に、更にパッケージを追加できます。

- ツールキットをインストールするためには、WebSphere Integration Developer 6.2 をインストールしておく必要があります。
- ツールキットのオプション・コンポーネントである Monitor テスト環境をインストールするには、WebSphere Integration Developer 6.2 用の WebSphere Process Server テスト環境がインストールされている必要があります。

IBM Installation Manager は、WebSphere Integration Developer でインストールされます。このインストール方式を使用するには、IBM Installation Manager 1.2.1 以上がインストールされている必要があります。

IBM Installation Manager を使用して WebSphere Business Monitor Development Toolkit をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 「スタート」 → 「すべてのプログラム」 → 「IBM Installation Manager」 → 「IBM Installation Manager」をクリックして **IBM Installation Manager** を開始します。
2. 以下のステップを実行して、Monitor ツールキット・リポジトリ・ロケーションを追加します。
 - a. 「ファイル」 → 「設定...」をクリックして「**Installation Manager の設定**」パネルを開きます。
 - b. ナビゲーション・パネルの「リポジトリ」をクリックして、「リポジトリの構成 (**Repositories configuration**)」パネルを開きます。
 - c. 「リポジトリの追加...」をクリックして、新しいリポジトリのロケーションを追加します。(例: `Monitor_toolkit_image¥repository¥repository.config`)
 - d. 「参照...」をクリックして、希望するリポジトリのロケーションまで参照します。
 - e. 「**OK**」をクリックします。新しいリポジトリのロケーションが、リポジトリ・リストに追加されます。
 - f. 「リポジトリの構成 (**Repositories configuration**)」パネルの「**OK**」をクリックして設定を保存し、「設定」パネルを終了します。
3. 「パッケージのインストール」をクリックします。
4. 「パッケージのインストール」パネルで、「**IBM WebSphere Business Monitor Development Toolkit**」と「バージョン **6.2**」のチェック・ボックスを選択し、「次へ」をクリックします。これらのチェック・ボックスはいずれもデフォルトでオンになっています。正しいパッケージがローカル・システムにインストールされていない場合は、エラーが表示され、インストールを続行できません。
5. 「ライセンス」パネルで、使用許諾契約書の条項を確認し、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 使用条件の条項に同意します

- 使用条件の条項に同意しません
6. 「次へ」をクリックします。現在システムにインストールされているパッケージ・グループを特定するために、短時間のチェック処理がインストール・プログラムにより実行されます。
 7. 「ロケーション」パネルで WebSphere Integration Developer パッケージ・グループを含んでいる **package_group** をクリックし、「次へ」をクリックして続行します。選択したパッケージ・グループが、ツールキットの必須の前提条件を満たさない場合は、エラーが表示されます。
 8. 「フィーチャー」パネルで、インストールするフィーチャーを次から選択して、「次へ」をクリックします。
 - 「**Monitor 開発環境**」: Monitor 開発環境をインストールします。このオプションは、デフォルトで選択されており、編集できません。
 - 「**WebSphere Integration Developer でのモニター・モデル生成のサポート**」: WebSphere Process Server アプリケーションおよび WebSphere Enterprise Service Bus アプリケーションからモニター・モデルを生成できるようにします。
 - 「**アセット・リポジトリ・クライアント**」: WebSphere Business Modeler、WebSphere Integration Developer、および WebSphere Business Monitor からのビジネス・プロセス・マネジメント成果物を保管するアセット・リポジトリを提供します。このフィーチャーには、IBM Rational Asset Manager のインストールが必要です。サポートされる IBM Rational Asset Manager のバージョンは、7.1、7.1.0.1、7.1.1、および 7.1.1.1 です。
 - 「**Monitor テスト環境**」: 既存のテスト環境に Monitor テスト環境をインストールします。

Monitor テスト環境では、WebSphere Business Monitor サーバーへのモニター・モデルのデプロイ、Monitor アクション・サービスの構成、AlphaBlox による Business Space のデータの表示ができます。AlphaBlox を使用することによって、ダッシュボードにレポート、ディメンション、および組織を追加できます。

注: デフォルト・プロファイル・ロケーションは、`integration_dev_root\pf` ディレクトリに作成されます。

- 「**WebSphere Process Server での WebSphere Business Monitor プロファイル**」: 既存の WebSphere Process Server テスト・サーバーで稼働する WebSphere Business Monitor テスト・サーバーを作成します。
 - 「**WebSphere ESB での WebSphere Business Monitor プロファイル**」: 既存の WebSphere Enterprise Service Bus テスト・サーバーで稼働する WebSphere Business Monitor テスト・サーバーを作成します。
9. 「要約」パネルで、インストールされる機能、必要なディスク・スペース、およびインストール・ロケーションの情報を確認します。変更が必要な場合は、「戻る」をクリックして前の各パネルに戻り、値を変更します。
 10. 「インストール」をクリックして、インストールを開始します。インストールが完了したら、最後のパネルにある「**ログ・ファイルの表示**」リンクをクリックして、エラーが存在するかどうかを確認します。

11. 「完了」をクリックしてインストールを終了します。

インストール後に次のメッセージのようなエラー・メッセージがログ・ファイルに出された場合は、このメッセージを無視してかまいません。

Rational Application Developer からの WebSphere Application Server バージョン 6.1.0.21 テスト環境がインストールされていません。WebSphere Application Server バージョン 6.1 テスト環境を Rational Application Developer バージョン 7 からインストールし、バージョン 6.1.0.21 にアップグレードする必要があります。

サイレント・インストール方式を使用してツールキットを WebSphere Integration Developer にインストールする

サイレント・インストール方式を使用して、WebSphere Business Monitor Development Toolkit を既存の WebSphere Integration Developer 環境にインストールすることができます。使用する環境用に提供された応答ファイルを更新し、コマンド行からバッチ・ファイルを実行してインストールを完了することができます。

- ツールキットをインストールするためには、WebSphere Integration Developer 6.2 をインストールしておく必要があります。
- ツールキットのオプション・コンポーネントである Monitor テスト環境をインストールするには、WebSphere Integration Developer 6.2 用の WebSphere Process Server テスト環境がインストールされている必要があります。

サイレント・インストール方式で開発ツールキットをインストールするには、次の手順を実行します。

1. 製品 DVD またはローカルに作成したインストール・イメージ・ディレクトリーの WebSphere Business Monitor Development Toolkit インストール・イメージのルートから、サイレント・インストールの応答ファイル・テンプレートのコピー `responsefile.install.xml` を作成します。
2. そのファイルをエディターで開き、提供されている変数をユーザーの情報で置換します。

\$(PRODUCT_INSTALL_LOCATION)

ツールキットをインストールする WebSphere Integration Developer パッケージ・グループのパス。以下に例を示します。

```
installLocation='integration_dev_root'
```

\$(PACKAGE_GROUP_NAME)

ツールキットがインストールされるパッケージ・グループのプロファイル ID。以下に例を示します。

```
id='IBM WebSphere Integration Developer'
```

\$(FEATURE_LIST)

インストールする機能のプラグイン名。複数の機能は、コンマで区切る必要があります。次の例は、Monitor 開発環境とアプリケーション記述子機能がインストールされることを示しています。

```
features='com.ibm.wbimonitor.toolkit.ide, com.ibm.wbimonitor.toolkit.ide.madtool'
```

3. 応答ファイルを保存して閉じます。

4. コマンド・プロンプトを開き、WebSphere Business Monitor Development Toolkit インストール・イメージ・ディレクトリーに移動します。
5. 変更した応答ファイルのコピーを指し、ログ・ファイルの名前を入力して、次のコマンドを実行します。

```
installToolkit-silent.bat fullPath\responsefile.install.xml LogFileName
```

インストールが完了したら、コマンドで指定した *LogFileName* を確認します。空のファイルは、インストールが正常に完了したことを示します。C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\IBM\Installation Manager\logs にある Installation Manager ログ・ファイルを参照することもできます。

関連資料

『サイレント・インストールの応答ファイル・テンプレート』

サイレント・インストールの応答ファイル・テンプレート

次のサンプル・コンテンツは、IBM WebSphere Business Monitor Development Toolkit サイレント・インストールの応答ファイル・テンプレートから抽出したものです。このファイル (responsefile.install.xml) は、製品 DVD の IBM WebSphere Business Monitor Development Toolkit インストール・イメージまたはローカルに作成したインストール・イメージ・ディレクトリーのルートにあります。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!--
Replace the following variable in the file with the appropriate value:

$(PRODUCT_INSTALL_LOCATION): The product install location of the package group that you like to install Monitor toolkit.
This should be either Rational Application Developer 7.5.1 or WebSphere Integration Developer 6.2 location.
Example:
Default RAD installed path: C:\Program Files\IBM\SDP
Default WID installed path: C:\Program Files\IBM\WID62

$(PACKAGE_GROUP_NAME): The name of the package group that Monitor toolkit will be installed to. This should be an existing package group
that already has Rational Application Developer 7.5.1 or WebSphere Integration Developer 6.2 installed.
You can also check this from the Windows Start menu where Rational Application Developer or WebSphere Integration Developer is launched from.
Example:
Default package group name for RAD is 'IBM Software Delivery Platform'
Default package group name for WID is 'IBM WebSphere Integration Developer'

$(FEATURE_LIST): The list of Monitor features that you like to install separated by commas.

Below is the list of the Monitor features available for install:
com.ibm.wbimonitor.toolkit.ide Monitor Development Environment
com.ibm.wbimonitor.toolkit.ide.madtool WebSphere Integration Developer support for monitor model generation
com.ibm.ram.core.client Asset repository client
com.ibm.wbimonitor.toolkit.wasute WebSphere Business Monitor profile on WebSphere Application Server
com.ibm.wbimonitor.toolkit.wpsute WebSphere Business Monitor profile on WebSphere Process Server
com.ibm.wbimonitor.toolkit.esbute WebSphere Business Monitor profile on WebSphere ESB

For example, to install toolkit on Rational Application Developer, you should have the following value for the features in the response file.
features='com.ibm.wbimonitor.toolkit.ide,com.ibm.wbimonitor.toolkit.wasute'
-->

<agent-input clean='true' temporary='true'>

<server>
<repository location='../repository' />
</server>

<profile installLocation='$(PRODUCT_INSTALL_LOCATION)' id='$(PACKAGE_GROUP_NAME)' />

<install modify='false'>
<offering profile='$(PACKAGE_GROUP_NAME)' id='com.ibm.wbimonitor.toolkit' features='$(FEATURE_LIST)' />
```

関連タスク

WebSphere Integration Developer 8 ページの『サイレント・インストール方式を使用してツールキットを WebSphere Integration Developer にインストールする』サイレント・インストール方式を使用して、WebSphere Business Monitor Development Toolkit を既存の WebSphere Integration Developer 環境にインストール

ールすることができます。使用する環境用に提供された応答ファイルを更新し、コマンド行からバッチ・ファイルを実行してインストールを完了することができます。

Rational Application Developer 14 ページの『サイレント・インストール方式を使用してツールキットを Rational Application Developer にインストールする』サイレント・インストール方式を使用して、WebSphere Business Monitor Development Toolkit を既存の Rational Application Developer 環境にインストールすることができます。ご使用の環境用に、提供された応答ファイルを更新し、コマンド行からバッチ・ファイルを実行してインストールを完了することができます。

Rational Application Developer へのツールキットのインストール

IBM WebSphere Business Monitor Development Toolkit を既存の Rational Application Developer 環境にインストールできます。WebSphere Business Monitor Development Toolkit は、Windows の場合にのみ使用できます。

インストールを実行する前に、以下の作業を完了している必要があります。

- Rational Application Developer 7.5.1をインストールした。

Monitor テスト環境のインストールを予定している場合は、以下のタスクを完了させておく必要があります。

- Rational Application Developer 7.5.1 用の WebSphere Application Server テスト環境のインストール

WebSphere Application Server テスト環境は、正しいソフトウェア・レベル (6.1.0.21) でなければなりません。

次のいずれかの方法で、開発ツールキットを Rational Application Developer にインストールできます。

- WebSphere Business Monitor Development Toolkit 製品ランチパッド・プログラムの使用
- 既存の IBM Installation Manager の使用
- サイレント・インストール方式の使用

関連情報

 WebSphere Application Server の推奨フィックス

製品ランチパッド・プログラムを使用してツールキットを Rational Application Developer にインストールする

インストール・イメージのルート・ディレクトリーから使用できる製品ランチパッド・プログラムを使用して、WebSphere Business Monitor Development Toolkit を既存の Rational Application Developer 環境にインストールすることができます。ランチパッド・プログラムには、ご使用の環境に適切なオプションを選択する、対話式インストールが用意されています。

この作業を開始する前に、次のソフトウェアをインストールしておく必要があります。

- ツールキットをインストールするためには、Rational Application Developer 7.5.1 をインストールしておく必要があります。
- ツールキットのオプション・コンポーネントである Monitor テスト環境をインストールするには、WebSphere Application Server テスト環境がインストールされている必要があります。

Monitor テスト環境の使用を予定している場合は、適切なフィックスパックを適用して WebSphere Application Server を定義されたレベル (6.1.0.21) までアップグレードする必要があります。

製品ランチパッド・プログラムを使用して WebSphere Business Monitor Development Toolkit をインストールするには、次の手順を実行します。

1. launchpad.exe をクリックして、インストール・プログラムを起動します。
2. 「**IBM WebSphere Business Monitor Development Toolkit V6.2 のインストール**」をクリックしてインストールを開始します。IBM Installation Manager によって、WebSphere Business Monitor Development Toolkit ランチパッド・プログラムが開始されます。
3. 「インストール」パネルで、「**IBM WebSphere Business Monitor Development Toolkit**」と「**バージョン 6.2**」のチェック・ボックスを選択し、「**次へ**」をクリックします。これらのチェック・ボックスはいずれもデフォルトでオンになっています。正しいパッケージがローカル・システムにインストールされていない場合は、エラーが表示され、インストールを続行できません。
4. 「ライセンス」パネルで、使用許諾契約書の条項を確認し、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **使用条件の条項に同意します**
 - **使用条件の条項に同意しません**
5. 「**次へ**」をクリックします。現在システムにインストールされているパッケージ・グループを特定するために、短時間のチェック処理がインストール・プログラムにより実行されます。
6. 「ロケーション」パネルで Rational Application Developer パッケージ・グループを含んでいる *package_group* をクリックし、「**次へ**」をクリックして続行します。選択したパッケージ・グループが、ツールキットの必須の前提条件を満たさない場合は、エラーが表示されます。
7. 「フィーチャー」パネルで、インストールするフィーチャーを次から選択して、「**次へ**」をクリックします。
 - 「**Monitor 開発環境**」: Monitor 開発環境をインストールします。このオプションは、デフォルトで選択されており、編集できません。

注: サブコンポーネントの「**WebSphere Integration Developer でのモニター・モデル生成のサポート**」は選択しないでください。このオプションには、WebSphere Integration Developer のインストールが必要です。

- 「**Monitor テスト環境**」: 既存のテスト環境に Monitor テスト環境をインストールします。

- 「WebSphere Application Server での WebSphere Business Monitor プロファイル」: 既存の WebSphere Application Server テスト・サーバーで稼働する WebSphere Business Monitor テスト・サーバーを作成します。
8. 「要約」パネルで、インストールされる機能、必要なディスク・スペース、およびインストール・ロケーションの情報を確認します。変更が必要な場合は、「戻る」をクリックして前の各パネルに戻り、値を変更します。
 9. 「インストール」をクリックして、インストールを開始します。インストールが完了したら、最後のパネルにある「ログ・ファイルの表示」リンクをクリックして、エラーがあるかどうかを確認します。
 10. 「完了」をクリックしてインストールを終了します。

IBM Installation Manager を使用してツールキットを Rational Application Developer にインストールする

IBM Installation Manager を使用して、WebSphere Business Monitor Development Toolkit を既存の Rational Application Developer 環境にインストールすることができます。IBM Installation Manager では、既存の Eclipse 開発環境にパッケージを追加できます。

この作業を開始する前に、次のソフトウェアをインストールしておく必要があります。

- ツールキットをインストールするためには、Rational Application Developer 7.5.1 をインストールしておく必要があります。
- ツールキットのオプション・コンポーネントである Monitor テスト環境をインストールするには、WebSphere Application Server テスト環境がインストールされている必要があります。
- このインストール方式を使用するには、IBM Installation Manager 1.2.1 以上がインストールされている必要があります。

Monitor テスト環境の使用を予定している場合は、適切なフィックスパックを適用して WebSphere Application Server を定義されたレベル (6.1.0.21) までアップグレードする必要があります。

IBM Installation Manager を使用して WebSphere Business Monitor Development Toolkit をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 「スタート」 → 「すべてのプログラム」 → 「IBM Installation Manager」 → 「IBM Installation Manager」をクリックして **IBM Installation Manager** を開始します。
2. 以下のステップを実行して、Monitor ツールキット・リポジトリ・ロケーションを追加します。
 - a. 「ファイル」 → 「設定...」をクリックして「**Installation Manager の設定**」パネルを開きます。
 - b. 「リポジトリの追加...」をクリックして、新しいリポジトリのロケーションを追加します。(例: `Monitor_Toolkit_image¥repository¥repository.config`)
 - c. 「参照...」をクリックして、希望するリポジトリのロケーションまで参照します。

- d. 「OK」をクリックします。新しいリポジトリのロケーションが、リポジトリ・リストに追加されます。
 - e. 「リポジトリの構成 (Repositories configuration)」パネルの「OK」をクリックして、設定を保存し、「設定」パネルを終了します。
3. 「パッケージのインストール」をクリックします。
 4. 「インストール」パネルで、「IBM WebSphere Business Monitor Development Toolkit」と「バージョン 6.2」のチェック・ボックスを選択し、「次へ」をクリックします。これらのチェック・ボックスはいずれもデフォルトでオンになっています。正しいパッケージがローカル・システムにインストールされていない場合は、エラーが表示され、インストールを続行できません。
 5. 「ライセンス」パネルで、使用許諾契約書の条項を確認し、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 使用条件の条項に同意します
 - 使用条件の条項に同意しません
 6. 「次へ」をクリックします。現在システムにインストールされているパッケージ・グループを特定するために、短時間のチェック処理がインストール・プログラムにより実行されます。
 7. 「ロケーション」パネルで Rational Application Developer パッケージ・グループを含んでいる *package_group* をクリックし、「次へ」をクリックして続行します。選択したパッケージ・グループが、ツールキットの必須の前提条件を満たさない場合は、エラーが表示されます。
 8. 「フィーチャー」パネルで、インストールするフィーチャーを次から選択して、「次へ」をクリックします。
 - 「Monitor 開発環境」: Monitor 開発環境をインストールします。このオプションは、デフォルトで選択されており、編集できません。

注: サブコンポーネントの「WebSphere Integration Developer でのモニター・モデル生成のサポート」は選択しないでください。このオプションには、WebSphere Integration Developer のインストールが必要です。
 - 「Monitor テスト環境」: 既存のテスト環境に Monitor テスト環境をインストールします。
 - 「WebSphere Application Server での WebSphere Business Monitor プロファイル」: 既存の WebSphere Application Server テスト・サーバーで稼働する WebSphere Business Monitor テスト・サーバーを作成します。
 9. 「要約」パネルで、インストールされる機能、必要なディスク・スペース、およびインストール・ロケーションの情報を確認します。変更が必要な場合は、「戻る」をクリックして前の各パネルに戻り、値を変更します。
 10. 「インストール」をクリックして、インストールを開始します。インストールが完了したら、最後のパネルにある「ログ・ファイルの表示」リンクをクリックして、エラーがあるかどうかを確認します。
 11. 「完了」をクリックしてインストールを終了します。

サイレント・インストール方式を使用してツールキットを Rational Application Developer にインストールする

サイレント・インストール方式を使用して、WebSphere Business Monitor Development Toolkit を既存の Rational Application Developer 環境にインストールすることができます。ご使用の環境用に、提供された応答ファイルを更新し、コマンド行からバッチ・ファイルを実行してインストールを完了することができます。

この作業を開始する前に、次のソフトウェアをインストールしておく必要があります。

- ツールキットをインストールするためには、Rational Application Developer 7.5.1 をインストールしておく必要があります。
- ツールキットのオプション・コンポーネントである Monitor テスト環境をインストールするには、WebSphere Application Server バージョン 6.1 テスト環境がインストールされている必要があります。

Monitor テスト環境の使用を予定している場合は、適切なフィックスパックを適用して WebSphere Application Server を定義されたレベル (6.1.0.21) までアップグレードする必要があります。

サイレント・インストール方式で開発ツールキットをインストールするには、次の手順を実行します。

1. **responsefile.install.xml** ファイルをツールキット DVD イメージからコピーし、変数 \$(PACKAGE_GROUP_NAME)、\$(PRODUCT_INSTALL_LOCATION)、および \$(FEATURE_LIST) を正しい値で置換します。
2. ツールキット DVD イメージからのコマンド・プロンプトから次のコマンドを実行します。

```
installToolkit-silent.bat fullPath%responsefile.install.xml LogFileName
```

3. インストールが完了したら、コマンドで指定した LogFileName ファイルを確認します。結果が空であれば、エラーはありません。次のロケーションにある実際のインストール・ログ・ファイルを参照することもできます。

C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\IBM\Installation Manager\logs

関連資料

9 ページの『サイレント・インストールの応答ファイル・テンプレート』

サイレント・インストールの応答ファイル・テンプレート

次のサンプル・コンテンツは、IBM WebSphere Business Monitor Development Toolkit サイレント・インストールの応答ファイル・テンプレートから抽出したものです。このファイル (responsefile.install.xml) は、製品 DVD の IBM WebSphere Business Monitor Development Toolkit インストール・イメージまたはローカルに作成したインストール・イメージ・ディレクトリーのルートにあります。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
```

```
<!--
```

```
Replace the following variable in the file with the appropriate value:
```

```
$(PRODUCT_INSTALL_LOCATION): The product install location of the package group that you like to install Monitor toolkit. This should be either Ration Application Developer 7.5.1 or WebSphere Integration Developer 6.2 location.
```

```
Example:
```

```
Default RAD installed path: C:\Program Files\IBM\SDP
```

```
Default WID installed path: C:\Program Files\IBM\WID62
```

```
$(PACKAGE_GROUP_NAME): The name of the package group that Monitor toolkit will be installed to. This should be an existing package group
```

that already has Ration Application Developer 7.5.1 or WebSphere Integration Developer 6.2 installed. You can also check this from the Windows Start menu where Ration Application Developer or WebSphere Integration Developer is launched from. Example:
Default package group name for RAD is 'IBM Software Delivery Platform'
Default package group name for WID is 'IBM WebSphere Integration Developer'

\$(FEATURE_LIST): The list of Monitor features that you like to install separated by commas.

Below is the list of the Monitor features available for install:
com.ibm.wbimonitor.toolkit.ide Monitor Development Environment
com.ibm.wbimonitor.toolkit.ide.madtool WebSphere Integration Developer support for monitor model generation
com.ibm.ram.core.client Asset repository client
com.ibm.wbimonitor.toolkit.wasute WebSphere Business Monitor profile on WebSphere Application Server
com.ibm.wbimonitor.toolkit.wpsute WebSphere Business Monitor profile on WebSphere Process Server
com.ibm.wbimonitor.toolkit.esbute WebSphere Business Monitor profile on WebSphere ESB

For example, to install toolkit on Rational Application Developer, you should have the following value for the features in the response file.

```
features='com.ibm.wbimonitor.toolkit.ide,com.ibm.wbimonitor.toolkit.wasute'  
-->  
  
<agent-input clean='true' temporary='true'>  
  
<server>  
<repository location='../repository'/>  
</server>  
  
<profile installLocation='${PRODUCT_INSTALL_LOCATION}' id='${PACKAGE_GROUP_NAME}'/>  
  
<install modify='false'>  
<offering profile='${PACKAGE_GROUP_NAME}' id='com.ibm.wbimonitor.toolkit' features='${FEATURE_LIST}' />
```

関連タスク

WebSphere Integration Developer 8 ページの『サイレント・インストール方式を使用してツールキットを WebSphere Integration Developer にインストールする』サイレント・インストール方式を使用して、WebSphere Business Monitor Development Toolkit を既存の WebSphere Integration Developer 環境にインストールすることができます。使用する環境用に提供された応答ファイルを更新し、コマンド行からバッチ・ファイルを実行してインストールを完了することができます。

Rational Application Developer 14 ページの『サイレント・インストール方式を使用してツールキットを Rational Application Developer にインストールする』サイレント・インストール方式を使用して、WebSphere Business Monitor Development Toolkit を既存の Rational Application Developer 環境にインストールすることができます。ご使用の環境用に、提供された応答ファイルを更新し、コマンド行からバッチ・ファイルを実行してインストールを完了することができます。

Monitor テスト環境の追加または除去

WebSphere Business Monitor Development Toolkit の既存のインストール済み環境を変更できます。IBM Installation Manager を使用して、Monitor テスト環境を追加または除去します。

IBM Installation Manager を使用して、Monitor テスト環境を追加または除去します。

1. Windows の「スタート」メニューから **IBM Installation Manager** を開始します。
2. 「パッケージの変更」をクリックします。
3. 「**IBM WebSphere Business Monitor Development Toolkit**」を含むパッケージ・グループを選択し、「次へ」をクリックします。
4. 以下のオプションのいずれかを選択します。

- Monitor テスト環境をインストールするには、「**Monitor テスト環境**」チェック・ボックスを選択します。
 - Monitor テスト環境を除去するには、「**Monitor テスト環境**」チェック・ボックスをクリアします。
5. 「次へ」をクリックします。
 6. 「要約」パネルの情報を確認し、「**変更**」をクリックして既存のインストール済み環境を変更します。

ツールキット・インストールの検査

IBM WebSphere Business Monitor Development Toolkit をインストールした後に、Monitor 開発環境と Monitor テスト環境が適切にインストールされていることを確認する必要があります。

開発環境が適切にインストールされたことの確認

IBM WebSphere Business Monitor Development Toolkit をインストールした後に、Monitor 開発環境が適切にインストールされていることを確認する必要があります。

インストール・ログ・ファイル内にエラーがないことを確認します。ログ・ファイルには、インストール・プログラムを実行した日時の日付ラベルが付いています。

`installation_date.current_time.xml`

例えば、Windows オペレーティング・システムでは、ログ・ファイルは次のディレクトリにあります。

- C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\IBM\Installation Manager\logs\20071015_0951.xml

常に最新のタイム・スタンプを持つファイルを確認します。

テスト環境が適切にインストールされたことの確認

IBM WebSphere Business Monitor Development Toolkit をインストールした後に、Monitor テスト環境が適切にインストールされていることを確認する必要があります。

以下の手順を実行して、WebSphere Business Monitor サーバーを始動できることを確認します。

1. Rational Application Developer または WebSphere Integration Developer を開始します。
2. Business Monitor パースペクティブで、「**サーバー**」をクリックして「サーバー」タブを開きます。インストール中の選択内容によっては、1 つまたは 2 つの Business Monitor サーバー・インスタンスが「サーバー」ビューに作成されている可能性があります。Development Toolkit を Rational Application Developer にインストールしていた場合は、1 つのサーバー・インスタンスのみです。Development Toolkit を WebSphere Integration Developer にインストールしていた場合は、最大 2 つのサーバー・インスタンスとなります。開発プラットフォームとインストール時の選択内容に応じて、次のインスタンスのうちの 1 つまたは 2 つを確認できます。

Rational Application Developer WebSphere Business Monitor サーバー v6.2

WebSphere Integration Developer WebSphere Process Server 上の WebSphere Business Monitor サーバー v6.2

WebSphere Integration Developer WebSphere Enterprise Service Bus 上の WebSphere Business Monitor サーバー v6.2

3. Business Monitor サーバーを右クリックし、「開始」をクリックして、サーバーを開始します。サーバーの開始後、状況列に「開始済み」状況が表示されます。

WebSphere Integration Developer WebSphere Integration Developer 環境ではデフォルトでセキュリティが有効になっているため (Business Monitor サーバーの場合、デフォルトのユーザー ID/パスワードの値は「admin/admin」です)、最初のログイン後にデフォルトのユーザー ID とパスワードを変更することをお勧めします。デフォルト値の変更方法の詳細については、WebSphere Integration Developer 文書のセキュリティに関するセクションを参照してください。

Development Toolkit の使用方法の学習

WebSphere Business Monitor には、WebSphere Business Monitor Development Toolkit の使用を始める際に役立つサンプルが用意されています。

このタスクを完了するには、事前に WebSphere Business Monitor Development Toolkit がインストールされている必要があります。

WebSphere Integration Developer または Rational Application Developer 内から使用可能なサンプルおよびチュートリアルにアクセスできます。オンライン・サンプル Web サイトから追加のサンプルを取得できます。

1. WebSphere Integration Developer または Rational Application Developer を開始します。
2. 「ヘルプ」 → 「サンプルおよびチュートリアル (Samples and Tutorials)」 → 「IBM WebSphere Business Monitor Development Toolkit」をクリックします。「サンプルおよびチュートリアル (Samples and Tutorials)」ページが開きます。使用可能なチュートリアルがリストされます。
3. 追加のサンプルおよびチュートリアルを取得するために、『オンライン・サンプル (Online Samples)』セクションから「取得 (Retrieve)」をクリックして、Web サイトから追加のサンプルを取得できます。オンライン・サンプルに接続するには、インターネット・アクセス権が必要です。
4. ご使用の環境にあるサンプルおよびチュートリアルを更新するために、Web サイトからこの更新が入手可能な場合に、『オンライン・サンプル (Online Samples)』セクションから「更新」をクリックして、更新を受信できます。オンライン・サンプルに接続するには、インターネット・アクセス権が必要です。

開発ツールキットの除去

IBM Installation Manager 1.2.1 を使用することによって、WebSphere Business Monitor Development Toolkit をコンピューターから除去できます。IBM Installation Manager では、対話方式とサイレント方式の両方をサポートします。

開発ツールキットをアンインストールするには、事前に以下の作業を完了しておく必要があります。

- WebSphere Integration Developer または Rational Application Developer からの WebSphere MQ Workflow 用 FDL to Monitor Model ユーティリティー のアンインストール

プラグインのアンインストール方法の説明については、21 ページの『WebSphere MQ Workflow 用 FDL to Monitor Model ユーティリティーの除去』を参照してください。

次のいずれかのオプションを選択して、ワークステーションからツールキットを除去します。

関連タスク

19 ページの『ツールキットを手動で除去』

WebSphere Business Monitor Development Toolkit を再インストールする前に、完全なアンインストールを実行する必要があります。この手順は、IBM Installation Manager が失敗した場合に、WebSphere Business Monitor Development Toolkit を手動でアンインストールするために使用します。

21 ページの『WebSphere MQ Workflow 用 FDL to Monitor Model ユーティリティーの除去』

WebSphere Business Monitor Development Toolkit を除去する必要がある場合は、まず WebSphere Integration Developer または Rational Application Developer から FDL to monitor model ユーティリティーを除去する必要があります。そうしない場合は、警告メッセージが複数表示されます。

IBM Installation Manager 対話方式でのツールキットの除去

IBM Installation Manager 対話方式を使用して、コンピューターから WebSphere Business Monitor Development Toolkit を除去します。対話方式では、除去するパッケージを選択できるインターフェースが用意されています。

IBM Installation Manager 対話方式で開発ツールキットを除去するには、次の手順を実行します。

1. 「スタート」 → 「すべてのプログラム」 → 「IBM Installation Manager」をクリックして IBM Installation Manager を開始します。
2. 「パッケージのアンインストール」アイコンをクリックします。
3. 「IBM WebSphere Business Monitor Development Toolkit」チェック・ボックスを選択してツールキット・パッケージを選択し、「次へ」をクリックします。
4. 「要約」パネルで情報を確認し、「アンインストール」をクリックしてツールキットを除去します。Monitor 開発環境が除去されます。Monitor テスト環境は、ワークステーションに存在する場合は除去されます。WebSphere Business Monitor Development Toolkit インストール済み環境を使用して作成されたプロファイルもすべて除去されます。Monitor データベースが Derby Embedded デー

データベースから除去されます。アンインストールが完了したら、パネルにある「ログ・ファイルの表示」をクリックして、ログにエラーが存在しないことを確認します。

5. 以下のディレクトリーが除去されたことを確認します。

- Rational Application Developer:
 - **app_dev_root/wbmonitor**
 - **app_dev_root/runtimes/base_v61/uninstall.wbm**
- WebSphere Integration Developer:
 - **integration_dev_root/wbmonitor**
 - **integration_dev_root/runtimes/bi_v62/uninstall.wbm**

IBM Installation Manager サイレント方式でのツールキットの除去

IBM Installation Manager サイレント方式を使用して、コンピューターから WebSphere Business Monitor Development Toolkit を除去します。サイレント方式では、提供された応答ファイルをカスタマイズし、コマンド行からバッチ・ファイルを実行してツールキットを除去することができます。

IBM Installation Manager サイレント方式で開発ツールキットを除去するには、次の手順を実行します。

1. ツールキット・インストール・イメージのディレクトリーに移動します。
2. responsefile.uninstall.xml ファイルのコピーを作成します。
3. responsefile.uninstall.xml のコピーを開き、次の変数を正しい値で置換します。
(PACKAGE_GROUP_NAME), **(PRODUCT_INSTALL_DIR)**
4. ファイルを保存して閉じます。
5. コマンド・プロンプトから、IBM Installation Manager のインストール・ディレクトリーに移動します。例えば、次のように入力します。

```
CD C:\Program Files\IBM\Installation Manager\eclipse
```

6. 次のコマンドを実行依頼します。

```
IBMIMc.exe -nosplash -silent -input path\responsefile.uninstall.xml  
-log LogFileName
```

アンインストール処理が完了したら、エラーが発生しなかったことをログ・ファイルで確認します。ログ・ファイルは、IBM Installation Manager のログ・ディレクトリーにあります。Windows オペレーティング・システムでは、ログ・ファイルは次のディレクトリーにあります。

```
C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\IBM\Installation  
Manager\logs
```

ツールキットを手動で除去

WebSphere Business Monitor Development Toolkit を再インストールする前に、完全なアンインストールを実行する必要があります。この手順は、IBM Installation Manager が失敗した場合に、WebSphere Business Monitor Development Toolkit を手動でアンインストールするために使用します。

WebSphere Business Monitor Development Toolkit を手動で除去するには、次の手順で行います。

1. Monitor テスト環境をインストールしてあった場合は、Rational Application Developer または WebSphere Integration Developer ディレクトリーから次のコマンドを発行して、既存の WebSphere Business Monitor プロファイル (WBMonSrv、WBMonSrv_wps、または WBMonSrv_esb) を削除します。
 - a. Rational Application Developer: `app_dev_root\runtimes\base_v61\bin\manageprofiles.bat -delete -profileName ProfileName`
 - b. WebSphere Integration Developer: `integration_dev_root\runtimes\bi_v61\bin\manageprofiles.bat -delete -profileName ProfileName`
2. WebSphere Application Server に WebSphere Business Monitor プロファイルが存在する場合は、次のコマンドを実行します。 `app_dev_root\runtimes\base_v61\uninstall.wbm\uninstall.exe`
3. プログラムが完了したら、Monitor テスト環境を除去するために、次のファイル/フォルダーを Rational Application Developer ディレクトリーから削除します (存在する場合)。
 - `app_dev_root\runtimes\createWBMonProfile.bat`
 - `app_dev_root\runtimes\monSrvUninstall.bat`
 - `app_dev_root\runtimes\base_v61\profiles\WBMonSrv`
 - `app_dev_root\runtimes\base_v61\deploytool\itp\plugins\com.ibm.wbmonitor.*`
 - `app_dev_root\image\wbmonitor`
4. WebSphere Process Server に WebSphere Business Monitor プロファイルが存在するかまたは WebSphere Enterprise Service Bus に WebSphere Business Monitor プロファイルが存在する場合は、次のコマンドを実行します。
`integration_dev_root\runtimes\bi_v61\uninstall.wbm\uninstall.exe`
5. プログラムが完了したら、Monitor テスト環境を除去するために、次のファイル/フォルダーを WebSphere Integration Developer ディレクトリーから削除します (存在する場合)。
 - `integration_dev_root\runtimes\createWBMonProfile.bat`
 - `integration_dev_root\runtimes\monSrvUninstall.bat`
 - `integration_dev_root\pf\WBMonSrv_wps`
 - `integration_dev_root\pf\WBMonSrv_esb`
 - `integration_dev_root\runtimes\base_v61\deploytool\itp\plugins\com.ibm.wbmonitor.*`
 - `integration_dev_root\image\wbmonitor`
6. IBM Installation Manager を起動します。
7. 「設定」 → 「ロールバックするファイル (Files for Rollback)」にナビゲートします。
8. 「保存されたファイルの削除 (Delete Saved Files)」を選択します。前のインストール試行で保存されたファイルは除去されます。

関連概念

18 ページの『開発ツールキットの除去』

IBM Installation Manager 1.2.1 を使用することによって、WebSphere Business

Monitor Development Toolkit をコンピューターから除去できます。IBM Installation Manager では、対話方式とサイレント方式の両方をサポートします。

WebSphere MQ Workflow 用 FDL to Monitor Model ユーティリティーの除去

WebSphere Business Monitor Development Toolkit を除去する必要がある場合は、まず WebSphere Integration Developer または Rational Application Developer から FDL to monitor model ユーティリティーを除去する必要があります。そうしない場合は、警告メッセージが複数表示されます。

WebSphere Integration Developer または Rational Application Developer からユーティリティーを除去するには、以下の手順を実行します。

1. 「ヘルプ」 → 「ソフトウェア更新」 → 「構成の管理」をクリックします。
2. ツリーを展開して、「**FDL to Monitor Model ユーティリティー機能 1.0.9**」を見つけ出し、それを選択します。
3. 「**FDL to Monitor Model ユーティリティー機能 1.0.9**」を右クリックします。コンテキスト・メニューに、「置換」、「無効にする」、「アンインストール」、および「プロパティー」が表示されます。
4. 「アンインストール」をクリックします。

関連概念

18 ページの『開発ツールキットの除去』

IBM Installation Manager 1.2.1 を使用することによって、WebSphere Business Monitor Development Toolkit をコンピューターから除去できます。IBM Installation Manager では、対話方式とサイレント方式の両方をサポートします。

ツールキットのインストール済み環境のトラブルシューティング

これらのトピックでは、WebSphere Business Monitor Development Toolkit のインストール時または除去時に発生する可能性のある問題について説明します。

「WebSphere Business Monitor Support」ページの『Technotes』セクションで、最新のトラブルシューティングのヒントを見つけることができます。

関連情報

 [WebSphere Business Monitor 技術情報](#)

サーバーが「サーバー」タブに表示されない

IBM WebSphere Business Monitor Development Toolkit をインストールした後、WebSphere Business Monitor サーバーが Rational Application Developer または WebSphere Integration Developer の「サーバー」タブに表示されます。プロファイルが作成されていることを確認し、**-clean** パラメーターを使用して Rational Application Developer または WebSphere Integration Developer を再始動してください。

1. ご使用の開発環境に応じて、以下のいずれかのディレクトリーにプロファイルが作成されていることを確認します。

Rational Application Developer:

app_dev_root¥runtimes¥base_v61¥profiles¥WBMonSrv

WebSphere Integration Developer: integration_dev_root¥pf¥WBMonSrv_wps

WebSphere Integration Developer: integration_dev_root¥pf¥WBMonSrv_esb

2. **-clean** パラメーターを使用して、Rational Application Developer または WebSphere Integration Developer を始動します。
 - a. コマンド・プロンプトを開き、Rational Application Developer または WebSphere Integration Developer がインストールされているディレクトリーにナビゲートします。
 - b. ご使用の開発環境に応じて、次のいずれかのコマンドを入力します。

Rational Application Developer: **eclipse.exe -clean**

WebSphere Integration Developer: **wid.exe -clean**

インストールには管理権限が必要

WebSphere Business Monitor Development Toolkit では、インストール中の非管理ユーザーはサポートされません。

userinst.exe を使用して WebSphere Business Monitor Development Toolkit をインストールすると、以下のエラーが表示されます。

このパッケージは、管理権限を持つユーザーのみがインストールできます。インストールする他のバージョンがあるかどうかを確認するか、管理者の Installation Manager を使用してパッケージをインストールしてください。

IBM Installation Manager では、非管理ユーザーが、userinst.exe ファイルを使用して Installation Manager をインストールして、インストール・プログラムを起動できます。userinst.exe を使用してインストール・プログラムを起動する場合は、インストール中に WebSphere Business Monitor Development Toolkit を選択できません。この問題は、管理ユーザーとしてログインしていても、install.exe ファイルではなく userinst.exe ファイルを使用してインストール・プログラムを起動した場合に発生します。

Development Toolkit を正常にインストールするには、以下の手順を実行します。

1. 管理者ユーザー・グループに割り当てられたユーザーとしてオペレーティング・システムにログインします。
2. install.exe ファイルを使用して Installation Manager をインストールします。

エラー・メッセージは表示されなくなり、WebSphere Business Monitor Development Toolkit をインストールするためのチェック・ボックスを選択できます。

userinst.exe と install.exe の詳細については、「About userinst.exe」を参照してください。

WebSphere Business Monitor Development Toolkit のインストール中の Phantom Agent Profile エラー

IBM Installation Manager の登録情報が失われた場合、または破損した場合、WebSphere Business Monitor Development Toolkit のインストール中に Phantom Agent Profile エラーが発生することがあります。

この破損が発生した場合に受け取る可能性があるエラー情報の例を以下に示します。

```
java.lang.IllegalArgumentException: Profile is not registered: Phantom Agent Profile
com.ibm.cic.agent.core.AgentUtil.groupByProfile(AgentUtil.java:1102)
com.ibm.cic.agent.internal.core.Director.install(Director.java:386)
com.ibm.cic.agent.core.Agent.install(Agent.java:1823)
com.ibm.cic.agent.core.Agent.install(Agent.java:1793)
com.ibm.cic.agent.internal.ui.wizards.InstallWizard.performTask(InstallWizard.java:231)
com.ibm.cic.agent.internal.ui.wizards.AbstractAgentUIWizard$2.run(AbstractAgentUIWizard.java:333)
com.ibm.cic.common.ui.internal.parts.ProgressPart$ProgressJob.run(ProgressPart.java:98)
org.eclipse.core.internal.jobs.Worker.run(Worker.java:55)
```

このエラーを解決するには、以下のステップを実行する必要があります。

1. パッケージ・グループ全体および IBM Installation Manager をアンインストールします。
2. IBM Installation Manager アプリケーション・データ・ディレクトリー (C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\IBM\Installation Manager) および IBM Installation Manager ディレクトリーが削除されていることを確認します。残っている場合は、ディレクトリーを削除します。
3. WebSphere Business Monitor Development Toolkit の前提条件をインストールします。
4. WebSphere Business Monitor Development Toolkit をインストールします。

関連情報



WebSphere Business Monitor 技術情報

ワークスペース・サーバー構成の手動削除

未解決のプロジェクト・リソースによって問題が発生しないようにするため、WebSphere Business Monitor Development Toolkit のアンインストール後は、Monitor ワークスペースを使用しないでください。ただし、Business Monitor プロジェクトでないプロジェクトで Monitor ワークスペースを使用する必要がある場合は、まず、残されている WebSphere Business Monitor サーバーの構成をすべて除去してください。

IBM Installation Manager を使用して WebSphere Business Monitor Development Toolkit を除去した場合、WebSphere Business Monitor サーバーの構成は、ワークスペースに残されます。アンインストールが正常に完了した後で以下の手順を実行すると、ワークスペースから構成を削除できます。

1. 開発アプリケーションで、「ウィンドウ」 → 「ビューの表示」 → 「サーバー」を選択します。
2. 「サーバー」ビューで、環境に適用できる WebSphere Business Monitor サーバーの構成を削除します。
 - WebSphere Business Monitor サーバー v6.1
 - WebSphere Process Server での WebSphere Business Monitor サーバー v6.1
 - WebSphere ESB での WebSphere Business Monitor サーバー v6.1
3. サーバー削除の確認メッセージが表示されたら、実際に実行されているサーバーの削除に関連する項目を選択して、「OK」をクリックします。

関連情報

 WebSphere Business Monitor 技術情報

第 2 章 ディレクトリーの規則

このトピックでは、WebSphere Business Monitor 製品および製品コンポーネントにおけるデフォルトのパスおよびフォルダー名を定義します。

ご使用のファイル・パスが、製品のインストール時に決定されたデフォルトのファイル・パスと異なるため、資料ではこれらの値を変数として指定します。資料全体で使用される変数は、以下のセクションで定義されます。

インストール・イメージ

インストール・イメージ は、製品 CD 上のファイル構造を指すか、製品 CD をコピーするか、パスポート・アドバンテージまたは他の配布場所からダウンロードしたソフトウェア・パッケージを解凍することによって、ローカルに作成されたファイル構造を指します。

monitor_installation_image

WebSphere Business Monitor のインストール・イメージを示します。

toolkit_installation_image

WebSphere Business Monitor Development Toolkit のインストール・イメージを示します。

デフォルトのインストール・ロケーション

ソフトウェアのインストール時に、インストール・ロケーションを指定しない場合、インストール・プログラムはデフォルトのロケーションを使用してインストールします。このロケーションは、デフォルトのインストール・ディレクトリーと呼ばれます。製品をデフォルトのディレクトリーにインストールすることもそれ以外の場所にインストールすることもある上、デフォルト・ディレクトリー構造はオペレーティング・システムによって異なっている場合があるため、これらのパスはこの資料全体で変数として定義されます。

monitor_root

以下のデフォルトのインストール・ルート・ディレクトリーは、WebSphere Business Monitor 用です。

AIX®: /usr/IBM/WebSphere/MonServer

HP-UX: /opt/IBM/WebSphere/MonServer

Linux®: /opt/ibm/WebSphere/MonServer

Solaris: /opt/ibm/WebSphere/MonServer

Windows: C:\Program Files\IBM\WebSphere\MonServer

app_server_root

以下のデフォルトのインストール・ルート・ディレクトリーは、WebSphere Application Server 用です。

AIX: /usr/IBM/WebSphere/AppServer

HP-UX: /opt/IBM/WebSphere/AppServer

Linux: **/opt/IBM/WebSphere/AppServer**

Solaris: **/opt/IBM/WebSphere/AppServer**

Windows: **C:\Program Files\IBM\WebSphere\AppServer**

profile_root

以下のデフォルトのインストール・ルート・ディレクトリーは、WebSphere Application Server プロファイル用です。

AIX: **/usr/IBM/WebSphere/AppServer/profiles/profile_name**

HP-UX: **/opt/IBM/WebSphere/AppServer/profiles/profile_name**

Linux: **/opt/IBM/WebSphere/AppServer/profiles/profile_name**

Solaris: **/opt/IBM/WebSphere/AppServer/profiles/profile_name**

Windows: **C:\Program Files\IBM\WebSphere\AppServer\profiles\
profile_name**

portal_root

以下のデフォルトのインストール・ルート・ディレクトリーは、WebSphere Portal 用です。

AIX: **/usr/IBM/WebSphere/PortalServer**

HP-UX: **/opt/IBM/WebSphere/PortalServer**

Linux: **/opt/IBM/WebSphere/PortalServer**

Solaris: **/opt/IBM/WebSphere/PortalServer**

Windows: **C:\Program Files\IBM\WebSphere\PortalServer**

integration_dev_root

以下のパスは、WebSphere Integration Developer 用のデフォルトのインストール・ディレクトリーです。

Windows: **C:\Program Files\IBM\WID62**

app_dev_root

以下のパスは、Rational Application Developer 用のデフォルトのインストール・ディレクトリーです。

Windows: **C:\Program Files\IBM\SDP75**

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711
東京都港区六本木 3-2-12
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任または保証条件は適用されないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 (C) Copyright IBM Corp. 2000, 2008. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

プログラミング・インターフェース情報は、プログラムを使用してアプリケーション・ソフトウェアを作成する際に役立ちます。

一般使用プログラミング・インターフェースにより、お客様はこのプログラム・ツール・サービスを含むアプリケーション・ソフトウェアを書くことができます。

ただし、この情報には、診断、修正、および調整情報が含まれている場合があります。診断、修正、調整情報は、お客様のアプリケーション・ソフトウェアのデバッグ支援のために提供されています。

警告: 診断、修正、調整情報は、変更される場合がありますので、プログラミング・インターフェースとしては使用しないでください。

商標

IBM、IBM ロゴ、CICS、DB2、developerWorks、IMS、Lotus、Passport Advantage、Rational、Redbooks、Tivoli、Universal Database DB2、WebSphere、および z/OS は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Adobe は、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。